

科 目 名	学年	期別・授業形態・単位数	教 員 名 建設工学コース長 研 究 室 内 線 電 話 e-mail:
インターンシップ Internship	1 または 2	原則として夏季休業 期間中・実習・2単位	
	授業（時間）＋自己学習（時間）＝標準時間の学習時間		
	科目到達レベル：□1.知識・記憶 □2.理解 □3.適用 □4.分析 <input checked="" type="checkbox"/> 5.評価 □6.創造		
この科目は、関連する実務の場（学外企業、大学など）を自主的に選択し、受け入れ側の設定したテーマに対する実習・就業体験等を通して、専攻科で学習している専門知識と実際の経験の統合を行うものである。			
【授業目的】 一定期間、高等教育機関における研修、実習や企業等での就業体験をし、専門分野における知識・技術・業務に触れながら実務能力を深め、新たな学習意欲を高めることを目的とする。			
【Course Objectives】 Through employment experiences for a fixed period in a company, a public corporation or an organization of a local self-governing body (or a country), students study the manners as member of society, a sense of responsibility over work, an engineer's role and technical importance. Moreover, students raise their occupational consciousness and can tackle study with a strong awareness for a future employment.			
【到達目標】 1 企業における福利厚生面（高等教育機関における教育研究環境）や社員の価値観（教員や学生の価値観）など多様な要素から自己の進路としての企業（高等教育機関）を総合的に判断することの重要性を理解できる。 2 企業における社会的責任を理解できる。 3 企業活動（高等教育機関活動）が国内外で他社あるいは他者とどのような関係性を持つかを理解できる。 4 社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。 5 研修先で必要とされている技術者像を理解できる。			
【学習・教育到達目標】 (C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。			
【キーワード】 インターンシップ, ものづくり, 工場実習 internship, making of things, factory practice		【授業時間】 8時間×10日以上＝80時間以上	
【授業方法】 原則として夏季休業中に10日間以上、高等教育機関・企業等に出向いて研修をする。 1. 「インターンシップ申込書」を専攻科コース長に提出する。 2. 「インターンシップ説明会」に出席する。 3. 研修終了後、「インターンシップ実施証明書」、「インターンシップ報告書」を専攻科コース長に提出する。 4. 研修内容を「インターンシップ報告会」で発表する。		【学習方法】 1. 研修プログラムは、受け入れ機関が指定する場合と、事前打ち合わせをする場合がある。 2. 経費については、打ち合わせ先に一任する（交通費あり／なし、宿舎あり／なし）。 3. 傷害保険に加入する。 4. インターンシップ報告会の資料作成のための自己学習を義務づける。	
【履修上の注意】 本校学生として恥ずかしくない態度で臨むこと、また、学習の一環であることを認識し取り組むこと。なお、1年もしくは2年のいずれかで2単位を履修可能である。		【科目の位置付け】 1. 先行して履修すべき科目 2. 後で履修する関連科目 3. 同時に履修する関連科目	
【定期試験の実施方法】 なし			
【成績の評価方法・評価基準】 到達目標と以下の項目に基づき、専攻科委員会で審議し、総合的に合否を判定する。 1. インターンシップ実施証明書の評価（実施機関による評価） 2. 実施学生が作成したインターンシップ報告書の評価（専攻科コース長による評価） 3. インターンシップ報告会の評価（専攻科担当教員3名以上による評価）			

【教科書・教材等】**【参考書・参照 URL 等】****【授業計画】**

週	内 容	到達目標	教科書参照ページ
	原則として、夏季休業中の10日間以上、海外を含む高等教育機関、企業、公団、地方自治体、国の機関等に出向き、受け入れ側から提供されるテーマに基づいて実習・研修を行う。	1～5	
	★定期試験		
	定期試験返却・到達度確認		

【学生へのメッセージ】

インターンシップは技術者教育の一環として、学校で学んだ知識・技術を、他の高等教育機関、企業等で実際に実習等を体験するものである。

体験を通して、今どのような技術が社会で必要とされているのか、そのためには何を学ぶべきか、また、実際に「ものづくり」の技や学術研究の一端に触れ、同時に自分の技術的・研究的センスを発見する絶好の機会である。さらには、将来に向けて、進路意識を高め就職・進学対策の一助と位置づけ、取り組むことを期待する。